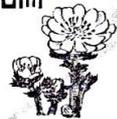


交通 評論



戦後70年の今年は終戦前後の新年に関する記事を見ることが多くなった。懐かしいと思う一方で日本中が飢えに苦しみ、明日の見えなかった辛い時代が悪夢の様によみがえる。同時に、その時代をよく知っている人たちが政策決定者の中で少なくなっていることが不安になる。

1942年7月

1945年元旦の富士山測候所(当時は観測所)ではエンジンによる発電に頼って困難な気象観測を続けていた。気圧の低い富士山頂で木炭とお湯で温めながら重油のエンジンを動かすことは至難の業で、電源維持には困難を極めていた。

1944年4月から、本土決戦に備えて通信中継地を作るため陸軍による送電

線の敷設が急ぎよ行われ、完了していたが、3・3kVの高圧電流を100Vに落とす変圧器が運び上げられていなかった。「重い変圧器を運ぶことのできる唯一の強力」と云われた志村弘氏が徴用にさられて運ばな

2002を参考にした。終戦前後の富士山頂の気象観測がいかに過酷な条件で行われていたかが分かる。終戦後最大の気象災害となった狩野川台風、伊勢湾台風では数千人の犠牲者を出した。それに備えるための大型レーダーが設置されたのが1964年である。

富士山測候所の電源

土器屋 由紀子

藤原寛人(新田次郎)が中心になって当時世界一の富士山レーダーを完成させた話は小説や話の小説や

1945年元旦の富士山測候所(当時は観測所)ではエンジンによる発電に頼って困難な気象観測を続けていた。気圧の低い富士山頂で木炭とお湯で温めながら重油のエンジンを動かすことは至難の業で、電源維持には困難を極めていた。

1944年4月から、本土決戦に備えて通信中継地を作るため陸軍による送電

線敷設が急ぎよ行われ、完了していたが、3・3kVの高圧電流を100Vに落とす変圧器が運び上げられていなかった。「重い変圧器を運ぶことのできる唯一の強力」と云われた志村弘氏が徴用にさられて運ばな

2002を参考にした。終戦前後の富士山頂の気象観測がいかに過酷な条件で行われていたかが分かる。終戦後最大の気象災害となった狩野川台風、伊勢湾台風では数千人の犠牲者を出した。それに備えるための大型レーダーが設置されたのが1964年である。

藤原寛人(新田次郎)が中心になって当時世界一の富士山レーダーを完成させた話は小説や話の小説や

1945年元旦の富士山測候所(当時は観測所)ではエンジンによる発電に頼って困難な気象観測を続けていた。気圧の低い富士山頂で木炭とお湯で温めながら重油のエンジンを動かすことは至難の業で、電源維持には困難を極めていた。

1944年4月から、本土決戦に備えて通信中継地を作るため陸軍による送電

(江戸川大学名誉教授)